

以森伝心

前理事長 柏原康夫 筆

No.
46

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

伝統の“火”を 守り伝える

■ 京都の森の仲間たち
ひととまりデザイン研究所

■ 企業等参加の森林づくり

■ 豊かな森を次世代へ
森の出前授業



京都の夏の夜を彩る「五山送り火」。毎年8月16日の午後8時より、東山に「大文字」、松ヶ崎に「妙・法」、西賀茂に「船形」、大北山に「左大文字」、嵯峨に「鳥居形」と、京都市内を囲む山の中腹に巨大な文字や形が相前後して点火される。葵祭、祇園祭、時代祭と並んで京都四大大行事のひとつに数えられる伝統行事について、左大文字保存会の岡本芳雄会長にお話をうかがった。



伝統の“火”を守り伝える

左大文字保存会会長
京都五山送り火連合会副会長 岡本芳雄

地域の重要な伝統行事

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年の五山送り火は規模を縮小して行われた。「大文字」は三本の筆画の両端および交点の火床計6カ所に一斉点火。「妙・法」「船形」「左大文字」はそれぞれ1カ所に、「鳥居形」は上部中央の神額を示す位置2カ所に灯された。

「小規模にしてでも行うことができてホッとします。お精霊さんをお迎えしておきながら、お見送りしないわけにはいきませんから」

インタビュー冒頭での岡本芳雄会長の言葉に、改めて五山送り火が観光行事ではなく宗教行事であることに気づかされた。京都では8月に入るとそれぞれの家でお精霊さん（ご先祖の霊）をお迎えする行事が行われる。16日に行われる五山送り火は、このお精霊さんを再びお送りするという意味をもっているのだ。

「私が幼いころには、家々の前に、近くの川から引いた水路が巡らされていてね。男衆が山で送り火を灯すのに合わせて、各家では火を灯した藁を水

路に浮かべ手を合わせていました」

庶民の行事であったため記録や文献が乏しく、いつごろ始まったのか、なぜ「大」の文字なのかなど由来や起源について詳しいことは分かっていないが、五山送り火を担ってきたのは、それぞれの山の麓に住み、農業や林業に従事しながら、地元のお寺を大切に守ってきた人々であった。現在は、各山麓の町の人々が保存会を結成して点火や薪の管理を継承している。

「私が聞いているところでは、左大文字の送り火は



江戸時代の中期くらいに始まったようです。戦後になって火床を整備してからは、線がまっすぐかどうか気に遣う必要もなくなりましたが、それ以前は荒縄を引っ張って篝火の位置決めをしていたので大変だったようです」

左大文字山は岩石が多く、地面に穴を掘って火床をつくるのが難しかったことから、以前は篝火を燃やしていたが、昭和10年、栗石をコンクリートで固めた火床43基を設置。昭和38年に10基を増設し53基となり現在に至る。

「保存会の活動は、この火床の修理や管理のほかに、2～3月の4日間と5～6月の4日間、火床周辺の立ち枯れ木や遮蔽木の伐採、下草刈り、山道の階段整備などに当たります。そして7～8月にはいよいよ送り火の準備、当日の各種儀式、後片付けなどで5日間山に入るので、年間13回におよびます」

左大文字保存会の会員数は現在、正会員68名、準会員4名の計72名。地域で代々受け継がれてきた。現在では中学3年間はいわゆる見習い期間で、準会員として活動に参加、高校からは正会員となる。

「火床のメンテナンスには左官の技術が必要ですし、階段整備のような土木・大工仕事もあるので、先輩たちの作業を見ながら覚えていってもらいます。最近の子どもたちは山作業の経験はほとんどなく、最初はナタやカマの使い方から教えないといけません。特にヨキは一步間違えれば自分の足を傷つけることになるので、教えるほうも真剣です」

ヨキとは「薪割り」の作業で頭上から原木に一気に振り下ろす斧のことで、松明準備には欠かせない道具。送り火の前日の8月15日、保管・乾燥させてあった割木をヨキで小割し、金閣寺総門前に設置された志納所まで運ぶ。左大文字の送り火では一基の火床で5～7束の割木が必要となるので、全体では300束あまりの割木を準備せねばならない。



前日に設置された志納所には、朝早くから松明や護摩木の志納に多くの人が訪れる。志納所は、お盆の1週間前の日曜日、15日、16日の3日間、設置される。



300束あまりの割木を各火床まで運び上げるのはたいへんな重労働。火床は、斜面の高低差を補い水平を保つため、30cm～3mと高さがそれぞれに異なる。



そして当日。午前中に、松明・護摩木を志納所から火床まで移動させる。途中まではトラックや、山の斜面に設置されたレール式のリフトを利用するが、そこから先は背負子で各火床まで運ぶ。そして、火床の上に松明・護摩木を井桁に組み上げた後、雨に備えてビニルシートをかけて、ようやく準備が完了する。

時代とともに形を変えて

夕方4時くらいまでに山での作業を終えると、いったん下山し婦人部隊が準備してくれた握り飯で力をつける。そして日が落ちるのを待って、各会員の家に門火を灯す。

「各家庭にお帰りになっておられたお精霊さんを菩提寺である法音寺へとお導きするための、道案内として灯します。昔は、火床に直接、送り火を点火していましたが、4代前の会長のときに松明行列の仕組みに変えました」

法音寺では、住職の読経の後、境内にある親火台から大松明に火を取る。大松明から各会員の手松明へと火を移したら寺を出発。松明行列で山頂へと向かう。山頂に到着すると、手松明の火はいったん消して大松明の火だけを残す。そして定刻になると再び



法音寺の境内にある親火台には、送り火当日の朝、読経を終えた住職から受け取った蠟燭の火が移され、夜に大松明に点火するまで燃やし続ける。左大文字の送り火は、法音寺を含めた旧大北山村の人たちによって受け継がれてきた。



大松明から手松明に火を移し、各持ち場の火床へと移動する。

「左大文字の送り火の特徴のひとつが点火の仕方。すべての火床に一斉点火するのではなく、筆順に点けていくのです。以前は1基ずつ点火していましたが、53基を点け終えるのに5分ほど掛かってしまうので、現在は3基ずつ点火しています」

それぞれの持ち場に移動し終え定刻になると、岡本会長のドラの合図で筆順に点火。最終火床の「点火完了」合図を確認し53基の炎がそろった頃合いを見計らって岡本会長が再びドラを鳴らす。これを合図に全員が火床の炎に向かって合掌礼拝。

「以前は、点火の時間帯も保存会によってまちまちでしたが、昭和38年(1963)に京都市の呼びかけで連合会組織が立ち上げられ、点火時刻をそろえるなど観光客の皆さんにも楽しんでいただける仕組みが整っていきました」

京都五山送り火連合会の発足を受け、観光資源としても活用できるよう五山の点火時刻を固定化。「大文字」が20時ちょうど、「妙・法」が20時10分、「船形」と「左大文字」が20時15分、「鳥居形」20時20分としたが、平成26年(2014)に51年ぶりに変更。20時の「大文字」から20時20分の「鳥居形」まで、5分おきに点火する現在のスタイルとなった。



松明行列を取り入れたことにより、「お盆にお迎えした精霊を再び冥府に送り帰す」という伝統行事としての目的が、より具現化されストーリー化された。



伝統を後世に伝えるために

「昔は会員のほとんどが農家だったので参加してもらいやすかったんですが、今は会社勤めが多く、保存会の活動に合わせて休みをとることが難しいようです。当日は休暇を認めてもらえるよう会社に依頼するなどして、なんとか55人前後を確保している状況です」

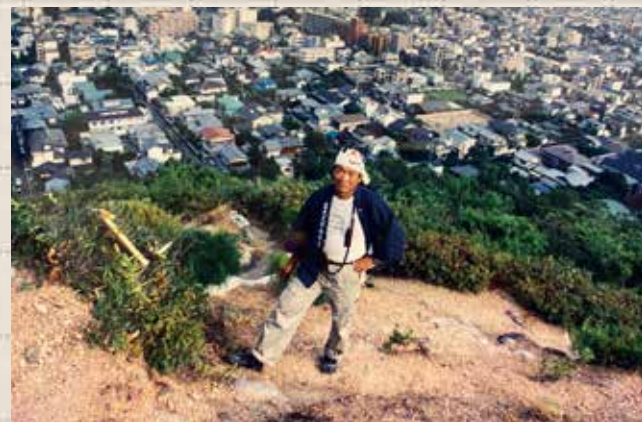
少子化・後継者不足という課題を解決するため、保存会は3年前に大きな決断を下した。古くからの慣習だった世襲性の枠を広げることとしたのだ。時代の変遷による課題は他にもある。

「送り火に使う割木は昔からアカマツと決まっていますが、近年はマツクイムシの影響などでアカマツが激減し、左大文字山で調達することが困難になってしまいました。そこで、ここ30年ほどは亀岡から仕入れていましたが、こちらでも調達が難しくなったとのことで、一昨年からは森林組合から購入しています」

アカマツの割木は火力がとても強く、炎が勢よく高く上がるうえ、炎の色が橙色できれいなのが特徴だという。クロマツの割木は炎が青白く火力も弱いいため、送り火には向かないそうだ。

これは京都五山送り火連合会に共通した課題で、理事会でもたびたび議題になった。そこで京都市風致保全課が中心となり3年前から始めたのが、アカマツ再生の試み。風致景観の保全のために京都市の所有する山で、専門家の意見を交えながら雑木を伐採し、アカマツを植樹。上手くいくようなら、将来的には地域のアカマツで送り火に使う薪をまかなえるようにしていきたいと期待を覗かせる。

時代が移りゆくなかで、伝統を守り伝えるためには「守る」だけではなく、新たに直面する課題に柔軟に適応していくことが大切。岡本会長のお話をうかがいながら、「不易流行」の理念を垣間見るような思いがした。



ひととまりデザイン研究所 (京都市右京区音戸山、嵯峨野など)



京都市は周辺を山に囲まれ、その豊かな文化も自然の恵みを受けはぐくまれてきました。京都の景観文化と切っても切り離せない京都三山で、森林や竹林の整備活動を行っている特定非営利活動法人ひととまりデザイン研究所の増永さんにお話を伺いました。

豊かな森はそれを支える 人の存在あってこそ



もともと森林生態学を専門として仕事で植生調査や森林再生の計画づくりなどに携わっており、全国でもいろいろな森を見ていました。しかし、例えば100年後こんな森林を目指しましょう、と素晴らしい計画をつくって

も、人の手が入らなければ森林は荒れていってしまう。どんなに良い計画をつくったとしても、それを支える人間がいなければ豊かな森は守れないーそんな思いから、自分の地元に近い山の森林再生計画づくりに関わったのを契機に、実際に森づくりを行うNPOを立ち上げました。このNPOでは、人を繋げ、育て、地域を作っていくことで、100年後の森を守ろうと、今できることを続けています。

地域とのかかわりで広がる活動の輪

一番初めに活動を始めたのは京都市内の小倉山というところです。そこをスタートにいろんな依頼を受け始め、徐々に活動が広がってきました。

今では小倉山のほか、音戸山嵯峨竹林、左大文字のある大北山、上賀茂などにも活動地があります。

特に大北山では、アカマツを再生するための森林整備を行っています。京都の五山の送り火は全国的にも有名ですが、それは周囲の山にアカマツが豊富にあったから



こそ生まれ受け継がれてきたものです。これを守るため、マツ枯れの発生しにくい、明るく風通しの良い林内環境を目指し、ボランティアによる整備活動を行っています。

新しい森の恵みの活かし方と循環を

嵯峨野での活動では、地域のタケノコを使った缶詰づくりなどにも広がっています。他にも、森を整備して出た枝葉をゾウのエサとして動物園に提供し、その糞を発酵肥料として減農薬でのコメ作りに活用す



る、といった地域での循環にも広げつつあります。私たちが目指したいのは、見た目だけの景観の美しさではなく、稲穂やゲンゴロウやタガメといった、豊かな生物多様性に支えられた、世界に誇れる景観保全と再生です。

これからも、地域の資源を活用しつつ、小さな経済を回しながら、人と森をつなぎ、持続可能なしくみを広げていきたいと思っています。

団体プロフィール

ひととまりデザイン研究所

設立：2015年

活動地：京都市右京区音戸山、嵯峨野など

会員数：23名

活動概要：森林・竹林の整備、環境教育など

企業等参加の森林づくり活動報告

府内各地で地域と連携して森林保全の活動に取り組んでおられる企業・団体の活動について、今年度行われた活動からピックアップしてご紹介します。

(協会に送付いただいた活動報告より抜粋して掲載しています)

8月29日(土)	一般財団法人三洋化成社会貢献財団	和束町
8月、9月	株式会社マツシマホールディングス	長岡京市
9月12日(土)	エスベック株式会社	福知山市
10月24日(土)	エスベック株式会社	福知山市
	株式会社島津製作所	南丹市
11月7日(土)	グンゼ株式会社	綾部市
11月14日(土)	三共精機株式会社	南丹市
11月21日(土)	オムロン株式会社綾部事業所	綾部市
	株式会社虎屋	南丹市
11月28日(土)	KDDI株式会社関西総支社	大山崎町
	一般財団法人三洋化成社会貢献財団	和束町



一般財団法人三洋化成社会貢献財団



株式会社マツシマホールディングス



エスベック株式会社



KDDI株式会社関西総支社



エスベック株式会社



グンゼ株式会社



三共精機株式会社



オムロン株式会社綾部事業所



株式会社虎屋



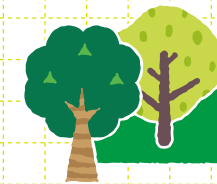
一般財団法人三洋化成社会貢献財団

令和2年9月23日(水)

オンライン情報交換会開催

新型コロナウイルス感染予防対策を踏まえた森林内での活動再開をテーマとして情報交換会を実施しました。当日は、公益社団法人国土緑化推進機構 瀬戸常務より同機構が策定した活動再開ガイドラインについてご紹介いただき、三洋化成工業株式会社様、エスベック株式会社様にそれぞれ参加人数の制限やプログラム・移動手段の見直しなど留意した点について事例発表をいただきました。

意見交換では、社員・家族等参加者に対する説明のほか、活動フィールドの地域への配慮やコミュニケーションの重要性などについても話題となりました。



豊かな森を次世代へ

森の出前授業

「緑の募金」の取り組みの一環として、府内の幼稚園・保育園・小中学校を対象とする森林環境教育に関する出前授業など実施しています。2020年度後半の事業の様子をお伝えします。

11月8日 朱い実保育園

11月4日、朱い実保育園の保護者会主催で、園児と保護者家族が市民グループ フィールドソサイエティの指導のもと、法然院境内で自然観察を、哲学の道ではスタンプラリーを楽しみました。参加者からは、「身近に美しい場所があり新鮮だった」、「良いお天気の下、親子で自然の中、楽しい時間を過ごすことができた」等の感想をいただきました。



1月14日・15日 嵯峨幼稚園・御室幼稚園

嵯峨幼稚園の2歳から年長児の皆さん150人、御室幼稚園の3歳から5歳児の80人が、雲ヶ畑 commons・結い林業組合の指導で、森の生きものたちのお話のあとしいたけの菌打ち体験をしました。「とんかちで打つのが楽しかった」、「しいたけが出てくるのが楽しみ」といった感想をいただきました。



11月12日 京都市立安朱小学校

3年生の皆さん34人が、京都森林インストラクター会の指導で、安祥寺山で自然観察会を実施しました。生徒の皆さんは、グループごとにインストラクターの解説で植物などを観察しながら登り、お気に入りの葉っぱを拾ってカードにしました。



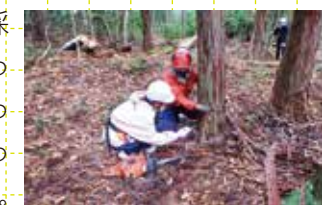
1月19日 葉室幼稚園

年中組の皆さん76人が、雲ヶ畑 commons・結い林業組合の指導でしいたけの菌打ち体験をしました。寒い中でしたが森のお話もしっかり聞いていただき、はじめての菌打ち体験に非常に興味を持って作業に取り組まれていました。



11月23日 京都建築専門学校

将来木材を扱う仕事に携わる1年生の皆さんが、京都林・材・建青年会議所の指導のもと、木材の生産方法を知るためチェーンソーの安全な使い方やヒノキの間伐を体験しました。参加者からは「伐採の作業の難しさがよくわかった」、「間伐して明るい森になって美しい眺めになるとわかった」等の感想をいただきました。



2月15日・22日 京都市立金閣小学校

3年生の皆さん70人が、京都森林インストラクター会の指導で野鳥について学習しました。鳥のお話を聞いたあと、巣箱の表札づくりを行い、衣笠山に巣箱を設置しました。



この「森の出前授業」は、皆様からお寄せいただいた「緑の募金」を財源として実施しています。当協会の「森の人材バンク」には、森林体験活動の指導ができる人材を登録しており、ご希望の学校にご紹介しています。実施を希望される場合は、事務局（巻末参照）までお問い合わせください。

事務局からのお知らせ - 活動報告 -

令和2年9月26日・27日

京都市左京区

令和2年度緑化運動ポスターコンクール 展示会開催

最優秀賞の2作品

府内の小・中・高・支援学校等から663点の応募があった同コンクールの上位入賞作品の展示会を、府立植物園で開催。作品の一部は全国コンクールへ応募され、



木津川市立立見台小2年
松本 昇真さん



八幡市立男山第三中学校3年
尾崎 すみれさん

れ、木津川市立立見台小の松本昇真さん、綾部市立吉美小の四方凛音さん、京都市立衣笠中学校の長崎朱里さんの作品が国土緑化推進機構理事長賞に入選しました。

令和2年10月3日、4日

亀岡市、京丹後市

森林・山村多面的機能発揮対策活動組織 現地見学会・安全講習会開催

林野庁の同事業に取り組まれている活動組織の皆さんを対象に、安全講習と現地交流会を実施。安全上の注意や機械のメンテナンスの講習に続いて、実際に活動されているフィールドを見学されました。



令和2年11月28日

京都市左京区

株式会社中央倉庫協賛

「宝が池の森で歩こう！遊ぼう！」

子どもの楽園スタッフによる森の木や生き物についての紙芝居やクイズ、森林インストラクターのお話を聞きながら、皆で森を元気に歩きました。尾根沿いでは、鹿の被害から守るための柵が設置されたコバノミツバツツジが元気に育っていることも観察。送り火の「法」の火床では、京都大学農学部高柳先生から、火床や周囲の森を守るための取り組みについてもお話を伺いました。



令和2年12月6日

京都市北区

国際ソロプチミスト京都

「子ども森づくり・体験学習会」



京都市北区の左大文字の火床付近で、送り火をどのように守り引き継いできたか、薪として利用してきた

アカマツを近隣の森で得られなくなっていることなどを左大文字保存会の岡本会長から伺ったあと、森林インストラクターと一緒に森林観察しながら山歩き。最後に、アカマツを元気にするために森の手入れをされているひととよりデザイン研究所の増永さんから、お話を伺いました。

緑の募金ご協力をお願い

緑の募金は、地域や学校の緑化活動や、未来を担う子どもたちの森林環境教育などに使われています。皆様のご協力をお願いいたします。



●郵便振替や銀行振込で

どこでも、誰でも募金ができます。

1. 郵便振替

00990-1-83253

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

2. 銀行振込 京都銀行府庁出張所

普通 3154305

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

理事長 安藤 孝夫



令和2年度募金実績

13,492,251 円

ご協力ありがとうございました。

●商品購入や募金箱で

「緑の募金付き商品」を購入したり、各所に設置された「緑の募金箱」に直接募金することで、ご協力いただけます。「緑の募金付き商品」開発・販売や募金箱の設置等、様々な形でご協力いただける店舗様、事務所様も募集しています。

会員
PR
欄

GUNZE



未来を預かる、未来を運ぶ
株式会社 中央倉庫

発行: 公益社団法人京都モデルフォレスト協会
〒604-8424 京都市中京区西ノ京樋ノ口町123 京都府林業会館3階

TEL&FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL https://www.kyoto-modelforest.jp

2021年春発行

facebook https://www.facebook.com/KyotoModelForest

入会案内資料をご希望の方は
ご連絡ください。